

シシリムカ文化財だより

平取町立二風谷アイヌ文化博物館・沙流川歴史館

2020. 4. 24

No. 6



沙流川歴史館アプローチのエゾヤマザクラ

皆さん、北海道にもようやく春がやってきました。桜の季節です。北海道の代表的なサクラといえば、エゾヤマザクラです。他にソメイヨシノ、チシマザクラがありますが、エゾヤマザクラは、ソメイヨシノより花の色が濃く、きれいに見えます。また、花が咲くと同時に赤っぽい葉の芽が開くので、よけいに鮮やかな感じがします。

道南の松前城や五稜郭公園、札幌市の北海道神宮、新ひだか町の静内二十間道路桜並木などが桜の名所ですが、実は平取町内でも桜がきれいな場所はいくつもあります。二風谷コタン周辺では、町立二風谷アイヌ文化博物館前の桜がおすすめです。大きくて見ごたえがあります。沙流川歴史館のアプローチにあるエゾヤマザクラも開館当初（1998年）はまだ小さく、幹も細かったのですが、20年以上経過した現在は、かなり大きくなりました。毎年きれいな花を咲かせてくれます。

他に町内では二風谷の国道沿いにある桜並木、本町地区の義経神社周辺、平取町役場敷地内の桜がとてもきれいです。皆さんのお気に入りの場所はどこでしょうか？ また、町内を散策してみませんか。あなたにとって新たなお気に入りの場所が見つかるかもしれません。

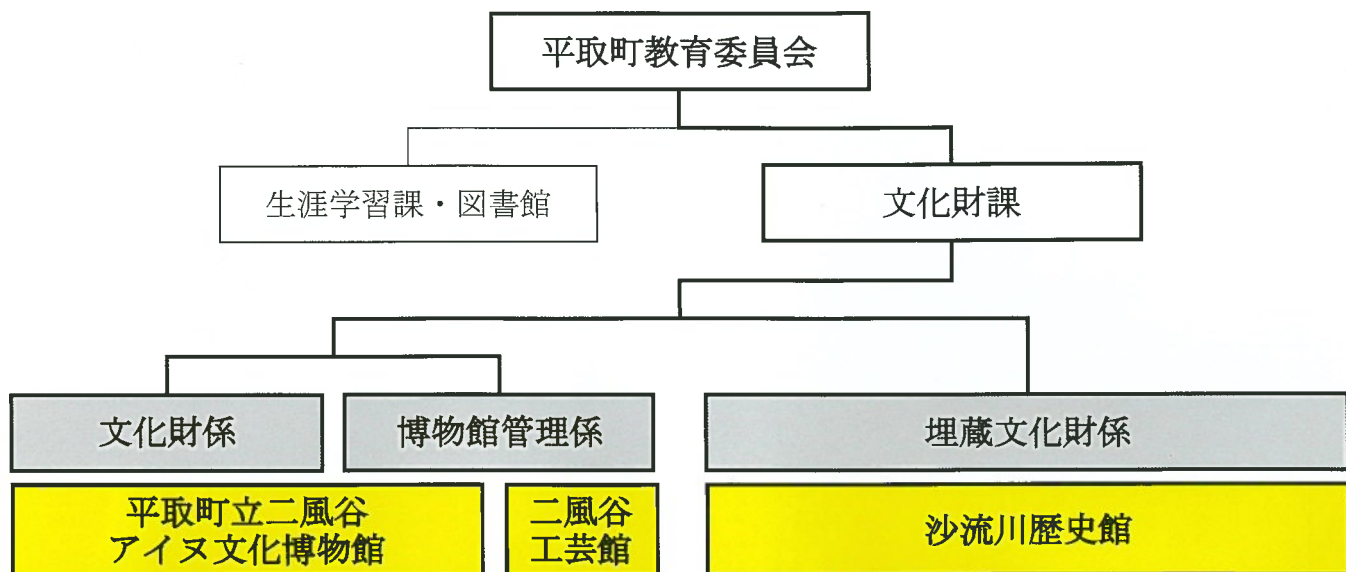
（久米智江）



二風谷アイヌ文化博物館前のサクラ

令和2年度文化財課職員体制

今年度の平取町教育委員会・文化財課の職員体制をお知らせします。



館長 森岡 健治（文化財課長 / 学芸員）
主幹 長田 佳宏（文化財係長 / 学芸員）
主幹 杉山 邦広（博物館管理係長）
事務員

廣岡 絵美（文化財係 / 学芸員）

笠原 早百合（文化財係）

小林 斉子（博物館管理係）

関根 真紀（二風谷工芸館）

旧マンロー邸内部一般公開（5/1～10/31）

10人以上の団体限定です。見学希望日の1か月前までに博物館まで予約してください。



館長 森岡 健治（文化財課長 / 学芸員
兼埋蔵文化財係長）
主事 本田 卓也（埋蔵文化財係）
事務員

田中 真澄（埋蔵文化財係 / 学芸員）

久米 智江（埋蔵文化財係）

佐々木 知代（埋蔵文化財係）

坂本 エミ（埋蔵文化財係）

レクチャーホールの貸出し

沙流川歴史館には210人を収容できるレクチャーホールがあります。講習会・上映会などの開催にぜひご活用ください。

（佐々木知代）



イギリスのジャパン・ハウス派遣事業

2019年の春、在英国日本大使館から「1910（明治43）年の日英博覧会の折に、平取のアイヌ民族が参加してアイヌ文化を発信した実績や近年、平取町の工芸家である貝澤徹氏の作品が大英博物館に常設展示されたり、日本のマンガ展が開催されるなど非常にアイヌ文化の関心が高まっている」として、ロンドンにあるジャパン・ハウス（外務省が日本の文化などを発信するために開設した施設）がアイヌ文化発信事業を実施するにあたり連携協力の提案を受けました。

平取町としてもイザベラ・バード（1831-1904）やジョン・バチュラー（1854-1944）、N・G・マンロー（1863-1942）など英国との関りは古くからあり、何よりもアイヌ施策推進法に合致した事業となりうることから交付金を申請、交付決定に至りました。

2019（令和元）年度は、2021（令和3）年度の事業実施に向けて、どのような連携協力が可能かを打合せるため、平取町のアイヌ関係団体代表者をイギリスに派遣しました。打合せの内容については、2021年10月から2022年1月までの4か月間にわたってアイヌ文化発信事業の展示を行い、平取からの人材派遣による古式舞踊など各種体験講座、講演等の検討、大英博物館や110年前の日英博覧会の資料を保有している周辺博物館とのコラボレーションの可否などについて話し合われ、2020（令和2）年も継続協議していくことが確認されました。（森岡健治）



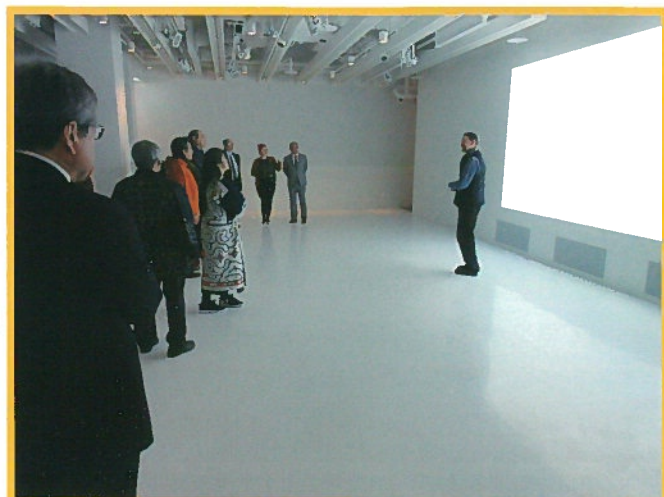
在英国日本大使館訪問（内部撮影禁止）



ジャパン・ハウス1階 企画展示に合わせた商品などが並ぶ



ジャパン・ハウスの館長・企画スタッフとの打合せ



ジャパン・ハウス内のイベントホール等の確認

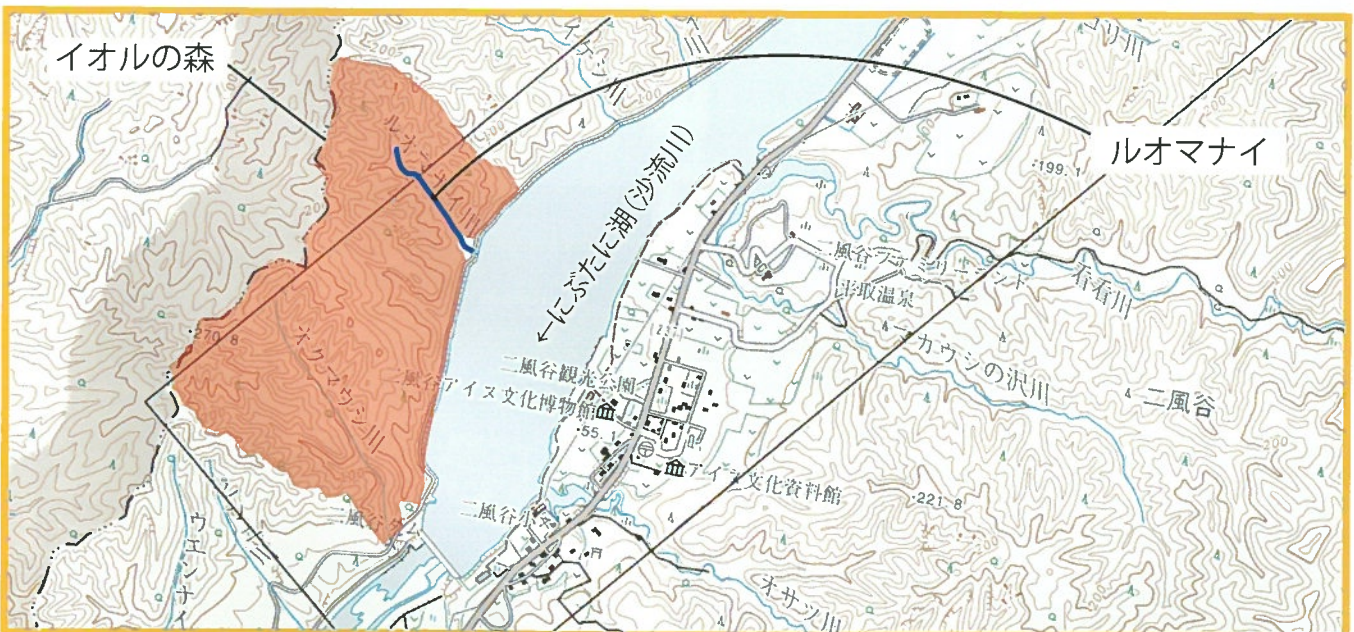
重要文化的景観 —重要な構成要素の紹介 6—

二風谷の古道（二風谷区域：アイヌの伝統を伝える山野と集落の景観）

二風谷にある「イオルの森」のなかに、ルオマナイ（ru oma nay：道・入る・沢）という、アイヌ語地名があります。地域の住民が^{むかわ}鶴川流域へ行くための峠道に利用していたとされる沢です。松浦武四郎が1858（安政5）年に二風谷へ来訪した時の記録にも、同じ沢に“ルマナイ”と記載されています。「其名義は此川^{その めいぎ}まま路^{このかわ}有りと云儀^{みちあ}のよし也^{いうぎ}」と述べられており、明治以前からの古い道であったことが分かります。

近代以降は北海道の社会基盤整備が進む中、徒歩での往来に用いる峠道が徐々に使われなくなっていくます。その一方で地域の古道を知ることは、住民が^{つちか}培ってきた元々の暮らしと土地利用の意識を読み解くことにもつながります。

山林の場合は峠越えの沢道、川の場合は渡船場で、それらが集落と集落を結ぶ「ル」（道）とつながり生活の利便性を高めていきます。道と集落、山、川の接点や境界面は、^{さる}沙流川流域の文化的景観の本質的価値を知るための重要な特性といえます。（長田佳宏）



ルオマナイは「イオルの森」内を流れる沢である。このほか沙流川流域には、峠道の沢を表すルペシペ（ru pes pe：道・に沿って下る・もの）や、通行困難な沢の特徴を示すウェンナイ（wen nay：悪い・沢）といったアイヌ語地名がみられる。

ルオマナイの言い伝え

この沢沿いには、西隣の鶴川川の枝沢、イナヤップ沢へ山越えする道がありました。それで、道のあつる沢と名づけられたものです。

今は船越さん兄弟がルオマナイの沢口で住んでいます。日高海岸に鉄道のない頃は、この沢から鶴川へ出て早来から汽車に乗って札幌に出たのだそうです。有名な日高豚の早来までこの道を歩かせて運びました。（萱野茂 1984『沙流川沿いの地名』より）



『沙流川沿いの地名』はアイヌ語地名と合わせて地域の逸話や植生が紹介されており、平取町の郷土史を学ぶための良書といえる。

ルオマナイ沿いを歩いて春の山菜を採取（2017年5月13日撮影）。イオルの森で一般を対象にした普及事業が度々行われている。

アイヌ語を覚えてみよう ⑥

イランカラナテ！（こんにちは！）

いよいよ今年、白老町にオープンする「ウポポイ」では、アイヌ語を公用語と位置付け、施設内の主な表示・解説は「すべてアイヌ語と日本語の両方で書こう」ということになりました。しかし、表示したい言葉の中には元々アイヌ語には無いものも沢山あります。それらをどうするか？ それには検討委員会を立ち上げ、アイヌ語をよく知っている人たちが、この2年間ほど話し合い、新たなアイヌ語表現の案を出し合ってきた経緯があります。そこで承認され、実際に使われる言葉のひとつをご紹介します。

アヌココロ アイヌ イコロマケンル（国立アイヌ民族博物館）

分解してみると、アン・私たちが ウココロ・～をともに持つ アイヌ・人間（アイヌ民族） イコロ・宝物 オマ・～に入っている ケンル・建物。（アン ウココロを続けて言うと、アヌココロに、イコロ オマ ケンルを続けて言う、イコロマケンルになります）

この表現に至るまでには、まず「国立」にあたるアイヌ語を考えなければなりません。国立の意味するところは「私たちが共有する」ということではないか。では「アヌココロ」と表現できるのではないか。そして、次の難問は「博物館」です。博物館とはどういう所か。「宝物が入っている建物」と言えるのではないか。ならば「イコロマケンル」でいいのではないか。

このような発想のもとに、委員のうちの誰かが、この表現を委員会に提案します。委員会では、この表現がアイヌ語文法的に問題はないか、表現が長くなり過ぎてはいないか、日本語の意味に対応した表現となっているか、などの検討を重ねて、全員の承認を得た後、始めて実際に使われることとなるのです。



「ウポポイ」ホームページ (<https://ainu-upopoy.jp/>)

皆さんも「ウポポイ」に行く機会がありましたら、いろんな場所にあるアイヌ語表示にも注目してみてください。言葉は生き物ですから、新たな表現を造ったとしても使わなければ、直ぐに消えてしまいます。しかし沢山の人が訪れるこのような施設で使い続けられれば、新たなアイヌ語も認知度が高まり、生きた言葉になっていくのだと思います。

ヤクン パクノ ネ。スイ ウヌカラン ロー！（それではここまでです。またお会いしましょう！）

（生涯学習課 関根健司）

遑星北斗 ～若きアイヌの歌人～

各地を回りアイヌ地位向上運動をしていました

遑星^{いばし ほくと}北斗は 1902（明治 35）年 1 月 1 日に余市町で父甚作、母ハ^{たきじろう}ルの三男として生まれました。本名は瀧次郎です。兄 2 人、姉 1 人、妹 1 人、弟 3 人がいましたが、1 番上の兄をのぞき北斗を含め 7 人が若くして亡くなっています。1917（大正 6）年、15 歳で夕張線登川付近に木材人夫として出稼ぎに行き、翌年、網走線大^{およち}菅地の出稼ぎの時に病気になりました。その後も石狩^{にしん}の鯨漁場や轟^{とどろき}鉦山、沿海州（ロシアの連邦の南東端、現在のプリモルスキー地方）に出稼ぎに行き、1925（大正 14）年、23 歳の時に西川^{にしかわこうじろう}光次郎、高見^{たかみ}沢清^{さわきよし}を頼って東京に上京します。その世話で東京市場協会事務員に就職しました。また、金田^{きんだいち}一京助^{きょうすけ}、後藤^{ごとう}静香^{せいこう}、伊波^{いは}普猷^{ふゆう}ほか、



遑星北斗『遺稿集』より掲載

多くの文化人（学者・作家・思想家・出版人）などの知遇を得て、3 月 19 日には第二回東京アイヌ学会で講話をしました。1926（大正 15）年、金田一京助に連れられ、柳田^{やなぎた}國男^{くにお}の「北方文明研究会」に出席した時にアイヌとしての自己の地位に深く苦しみ、民族復興の使命を痛感して北海道へ帰る決意をしました。当時、幌別（登別市）にいたバチラー八重子^{やえこ}の家（大日本聖公会教会）に向かい、幌別^{ちりましほ}で知里眞志保とバチラー八重子と同宿し、短歌を詠みます。

その後、平取村（平取町）でイギリス人宣教師ジョン・バチラーの創立した平取幼稚園を手伝い、日雇いの仕事をしながら、コタンを巡り同族や和人と意見交換、小学校への修養教材の配布などの活動を行っていました。1927（昭和 2）年、兄の子が病死したため、余市へ帰ります。その後、北斗も病気が悪化し床につきましたが、1 ヶ月で快方に向かい余市の遺跡調査を始めました。この頃に、ガリ版同人誌『コタン』創刊号を発行したり、「小樽新聞」や歌誌「新短歌時代」などにさかんに短歌を掲載するようになります。

しかし、翌年の 4 月ころ、再び病気が悪化し、余市の兄の元で闘病生活に入りました。北斗は病床にあっても読書を欠かさず、日記に闘病の短歌を書き続けましたが、1929（昭和 4）年、結核のために 27 歳という若さで亡くなりました。翌年、遺稿集『コタン』が出版され、1968（昭和 43）年には、二風谷小学校前庭に北斗の短歌を刻んだ歌碑が除幕されました。（坂本エミ）

コクワ取り

たった独で山奥に入る。淋しいが独は気持ちがいい。私は常に他人に相^{あい}鎧^{いづち}を打つ癖がある。厭^{くせ}なのだが仕方がない、性分なのだから。けれども独になった時は、相^い鎧^やを打つ様な厭^{いや}な気苦労から逃れて気楽になる。

だから淋しい中にも一人になった時は嬉しい。
コクワなんかどうでもよいのだ。



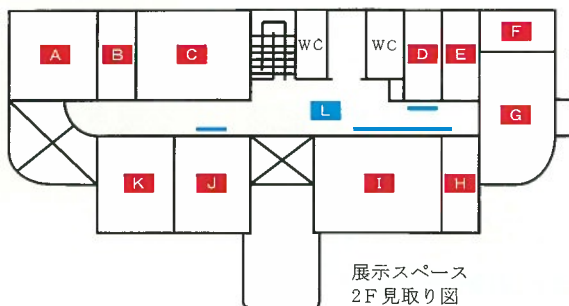
開拓財産 ～むかしのどうぐ～

その6：展示室のご案内

展示室L

壁面には「昭和の平取」を象徴する各産業の写真を11枚展示。その中から木工業の写真を紹介します。

旧荷負小学校展示施設



- A 商業・生活
- C 学校
- D 地域の記憶
- E いろいろな道具たち
- G 林業・馬具
- I 収穫（秋）
- J 畑・稲作（春）
- K 家での暮らし
- L 壁面展示（— 展示箇所）

B・F・H 関係者専用

平取町史によると、戦前・戦後は町内の豊富な森林資源を活用した木材・木製品の製造が盛んで、昭和初期には表谷木工場（本町）、八田木工場（振内町）、石井木工場（本町）などの工場が設立されたとあります。石井木工場は1951（昭和26）年に五十嵐林業所（現在の株式会社五十嵐工業：本町）に引き継がれました。株式会社五十嵐工業には、1958（昭和33）年8月に製材工場とオガ炭工場（左下の写真）が設立されたという記録が残されています。製材工場で木を加工する際に生じたウッドチップからオガ炭を造っていたそうです。その後、オガ炭工場は1971（昭和46）年3月頃、製材工場は1991（平成3）年12月頃に閉鎖されました。

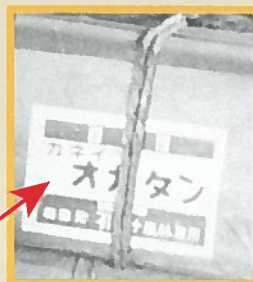
かつては日用品として普及していたオガ炭ですが、時代の移り変わりとともに一般の家庭から徐々にその姿を消していきました。現在では飲食店で炭焼き料理を作ったり、野外で火をおこしたりする際に使用されることが多いようです。

（廣岡絵美・小林斉子）

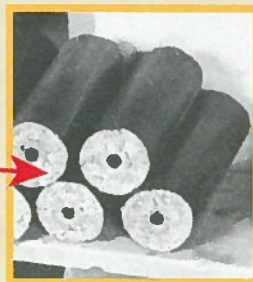
オガ炭とは

製材所から出るウッドチップやオガ粉、樹皮などを圧縮加熱成形してできるオガライトを炭にしたもの。薪ストーブや調理、風呂焚きなどの燃料に使われた。

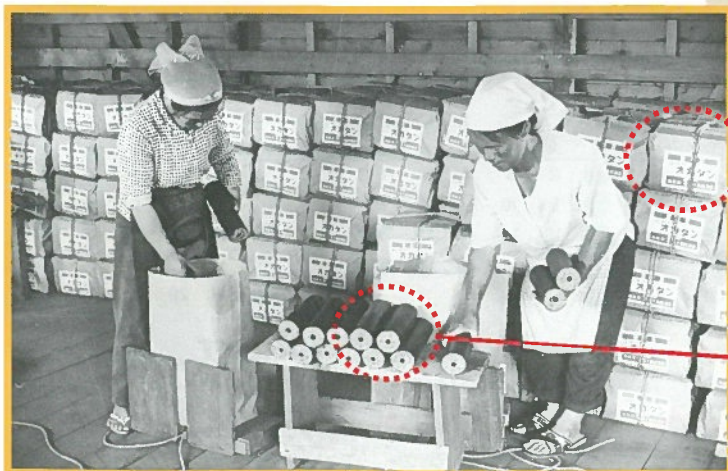
写真を拡大してみると…



オガ炭の入った袋に
カネイのオガタン
製造元 イ 五十嵐林業所
と書かれている。
「イ」は「カネイ」と読み、屋号を表す。屋号とは商店や歌舞伎役者などの家の呼び名。



オガ炭の形は、円筒形、四角形、六角形などがある。この工場で作られていたのは円筒形のもの。



五十嵐林業所のオガ炭工場内部の様子（昭和40年代）

《取材協力：株式会社五十嵐工業S様、本町在住T.Y様》



見学のご案内



【開館日時】＊変更の場合あり

5～11月の月・水・金曜日（祝日休館）9:00～12:00

上記以外の日程のご見学についてはお問合せください。

【ご予約・お問合せ】

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 ☎01457-2-2892

または

沙流川歴史館 ☎01457-2-4085

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

■国際博物館記念事業

ICOM（国際博物館会議）では、5月18日を「国際博物館の日」としています。記念事業の一環として、無料開館および記念品の贈呈を行います。ぜひご来館ください。

日時：5月17日（日）9:00～16:30

対象：19人以下の個人

■博物館移動展 in 札幌

『1903年夏の平取

～B・ピウスツキたちの短期調査より～』

期間：5月9日（土）～17日（日）

場所：札幌エルプラザ 1階情報センター
（札幌市北区北8条西3丁目）

■博物館移動展 講演会

日時：5月9日（土）13:30～15:30

場所：札幌エルプラザ 1階情報センター

講師：新井藤子氏（博物館学）

長田佳宏（文化財課主幹）

定員：先着50人（事前申込不要）

沙流川歴史館

■臨時休館しています

新型コロナウイルス感染症拡大を防止する観点から、4月末までを目処に臨時休館しています。さらなる休館延長のときは、歴史館Instagram・町HPでお知らせします。

■移動展『知ってみよう！やってみよう！はじめての考古学』

□役場貫気別支所

期間：5月19日（火）～6月1日（月）

□振内町民センター

期間：6月2日（火）～15日（月）

□ふれあいセンターびらとり

期間：6月16日（火）～29日（月）

※休館日は各施設で異なります。

■企画展『知ってみよう！やってみよう！はじめての考古学』

期間：6月30日（火）～8月23日（日）

場所：沙流川歴史館

休館日：7月6日・13日・20日・27日

※新型コロナウイルス感染症拡大防止により、上記行事が延期になる可能性があります。

詳しくは博物館HP・歴史館Instagram・町HPでお知らせします。

2020年4月

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	1	2

● 歴史館 休館日

2020年5月

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

■ 歴史館 企画展

2020年6月

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	1	2	3	4

※4/16～7/31 博物館は休まず開館しています

2020年7月

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1

シシムカ文化財だより No.6

2020年4月24日発行

編集・発行／平取町教育委員会文化財課

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

北海道沙流郡平取町字二風谷 55

TEL 01457-2-2892

FAX 01457-2-2828

E-mail nah@town.biratori.lg.jp

HP <http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/nibutani/>

アイヌ文化博物館
Facebook 更新中！



沙流川歴史館

北海道沙流郡平取町字二風谷 227-2

TEL 01457-2-4085

FAX 01457-2-4086

E-mail sar.muse@town.biratori.lg.jp

沙流川歴史館
Instagram 更新中！

